



株式会社アイペック 環境活動報告書 〈2016年版〉

(対象期間:2016年1月~2016年12月)



平成29年3月31日

代表取締役社長

馬籠 清英

INDEX

1. はじめに	…1
2. 環境理念・環境方針	…1
3. 実施体制	
3-1 実施体制図	…2
3-2 年間基本活動計画	…2
3-3 エコアクション21役割分担 責任権限表	…3
4. 対外活動結果	
4-1 主な環境活動内容	…4
4-2 顧客要求により行った有害物質調査	…4
5. 社内活動及び結果	
5-1 2017年度環境目標とアクションプラン	…5
5-2 2016年アクションプランの評価・コメント	…5
5-3 継続中アクションプラン	…6
6. 環境活動実績と中期目標	
6-1 環境活動実績(水・CO2・廃棄物排出量) 活動実績評価	…7
6-2 中期目標	…8
7. 環境関連法規への違反有無	…8
8. 2016総括	…9
9. 2017計画・目標	…9

1. はじめに

本年は、環境という限定された視点での活動から品質・コストも含めた広い視野での環境活動、すなわち環境とコスト(品質)のバランスを考慮した環境改善活動テーマを選定し、実行する事にしました。

今までとは異なる方向性(E+QCD)でのテーマ選定となり難しい面もありましたが、今後も機会があれば可能な範囲で取り組んでいく所存です。

エコアクション21ホームページ:<http://ea21.jp/>

2. 環境理念・環境方針

環境理念

株式会社 アイペックは、企業活動と地球環境との調和をめざし、環境保全に積極的に取り組むことにより社会的責任を果たしていきます。



環境方針

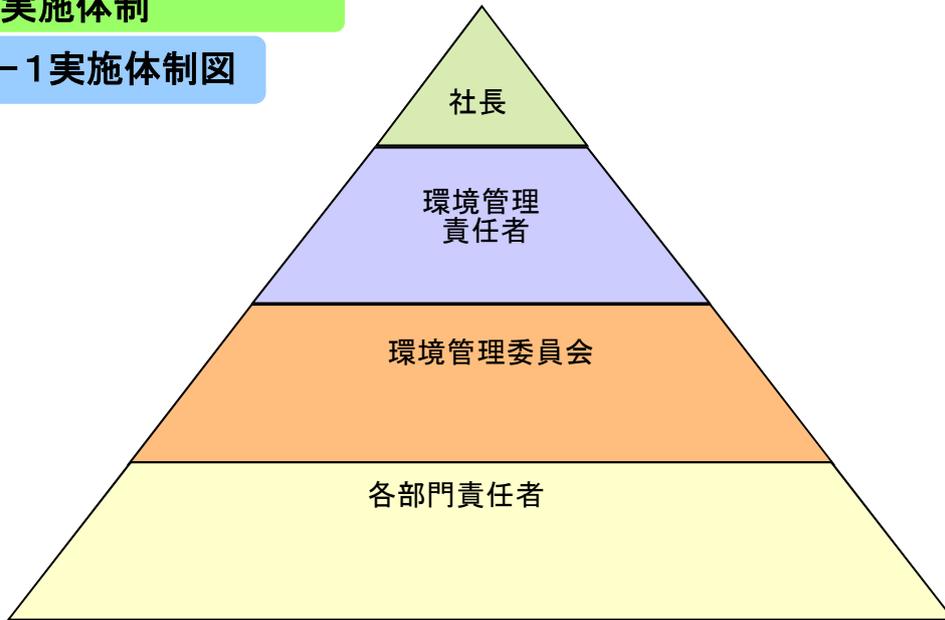
当社の事業活動が環境に与える影響を的確にとらえ、環境負荷低減を遂行するために仕組み、組織体制を整備し実行する。

- 1.地球温暖化防止のため、CO2の削減と、廃棄物の減量化、リサイクルを進める。
- 2.環境負荷低減のため、有害物質の使用を避けると共に、製品の小型化、低損失化を図り、信頼性、製品寿命の向上に努める。
- 3.環境関連の国内法、条例、協定を遵守する。
- 4.この環境方針を円滑かつ効率よく達成するため、社内規定を整備すると共に、従業員への教育を継続的に行う。



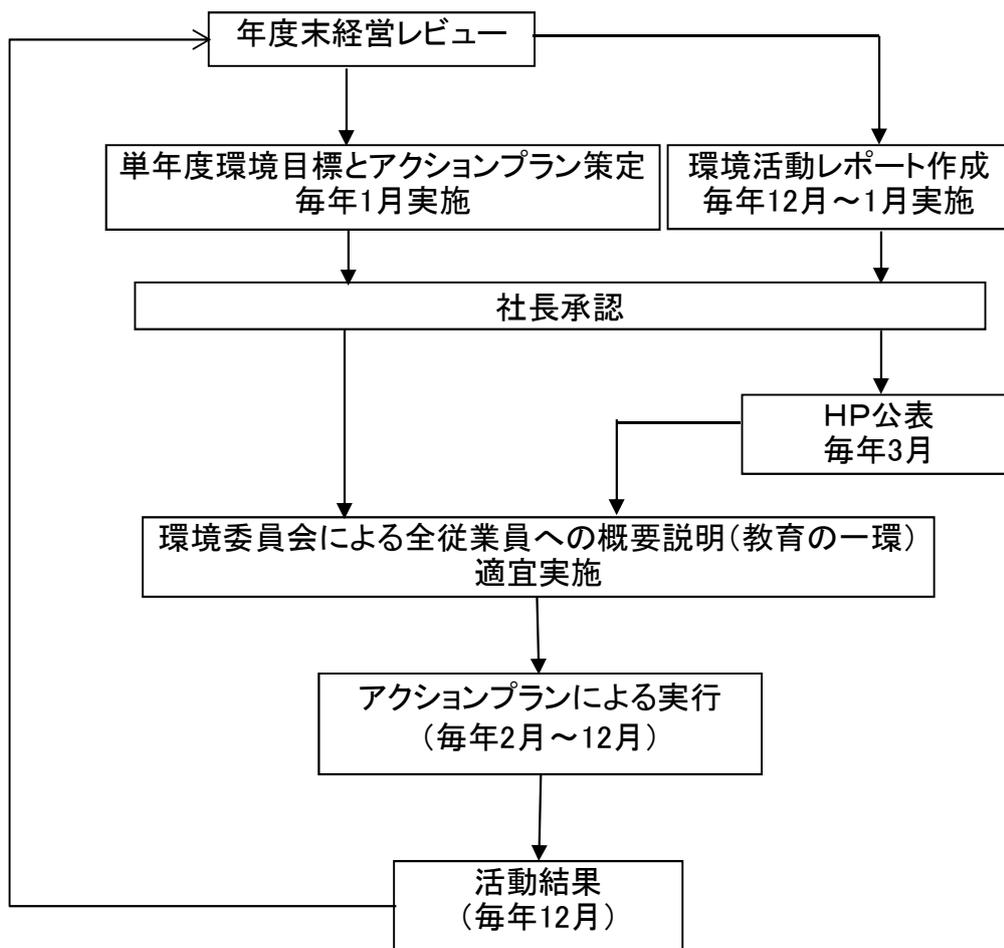
3. 実施体制

3-1 実施体制図



3-2 年間基本活動計画

…改善活動…



3-3 エコアクション21役割分担責任権限表

実行責任名称	主責任	役割責任権限
代表者	EMS全体の責任	<ul style="list-style-type: none"> ①環境方針の策定と誓約 ②環境目標及び環境活動計画(実行計画書)の承認(毎年1月実施) ③必要な経営資源の準備と提供 ④環境経営システム、環境方針及び環境目標の状況評価と見直し、指示を年度末経営レビュー時に実施(毎年12月) ⑤環境活動レポートHP公表の為の公表承認(毎年1月実施) ⑥環境管理責任者の任命
環境管理責任者	環境委員会の推進	<ul style="list-style-type: none"> ①環境委員会委員長 ②環境委員会の開催、推進及び取りまとめ ③環境経営システム及び環境目標の状況把握と社長への報告 ④外部利害関係者との連絡窓口
環境委員会	EMSの構築推進及び改善	<ul style="list-style-type: none"> ・週1回開催される会議の一部を環境委員会と称し環境活動の中核組織に位置づける ①環境管理システム構築及び運用に関する検討、指示及び問題解決 ②毎年1月環境目標及び環境活動計画(実行計画書)の立案を行い、定期的に実行計画の進捗状況を確認 ③環境負荷調査及び環境取組調査の実施又は実施指示と結果評価 ④環境関連法規等の調査と取りまとめ及び必要な遵守事項の指示を行い毎年12月には関連法規の最新確認実施 ⑤環境教育訓練の立案と実施又は実施指示 ⑥外部利害関係者の要望又は苦情の検討と解決案立案・実施 ⑦緊急事態の想定・対応策の策定及び訓練の実施と検証 ⑧毎年12月から1月環境活動レポートの作成とHP公表
部門責任者	指示事項の実行	<ul style="list-style-type: none"> ①環境委員会指示事項の実施及び又は実施指示 ②実施結果の環境委員会への報告



4. 対外活動結果



4-1 主な環境活動内容

対応済	鉛フリーはんだへ全面切り替え(2005.1月生産分より) ビス・ナット・ワッシャ類の三価クロメート品へ 全面切り替え(2006.3月生産分より)
継続	弊社製品全製品‘RoHS対応‘への全対応化 有害物質調査のデータベース化

4-2 顧客要求により行った有害物質調査

・2016年有害物質調査件数(2016.12.27現在)

RoHS調査	3
JAMP AIS(*1)	15
顧客オリジナルフォーマット	15
REACH SVHC(*2)	3
EICC/GeSI帳票(紛争鉱物)	7
計	42件

有害物質調査



*1 JAMP(アーティクルマネジメント推進協議会)が推奨する製品含有化学物質情報を伝達するための基本的な情報伝達シート

*2 欧州(EU)では欧州の新しい化学品規制(REACH規則: Registration, Evaluation, Authorisation and Restriction of Chemicals)が2008年6月1日から運用が開始されました。本規則では、EUで物質(調剤中の物質も該当)を年間1トン以上製造又は 輸入する事業者に対し、登録手続きが義務付けられました



5. 社内活動及び結果

5-1 2017年度環境目標とアクションプラン内容



総括責任者：環境委員会委員長

目標		2017年											
		2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
グリーン購入	単年度目標の検討												
	事前調査												
	施策立案												
	実行												
	代表者による全体の評価と見直し												
継続 廃棄物削減 (銅クズ・銅線)	実行												
	まとめ、レポート												
使用・排水量削減	実行												
	まとめ、レポート												
Co2削減	実行												
	まとめ、レポート												

5-2 2016年アクションプランの評価・コメント

		評価
環境社内規定類の体系的整理	エコアクション21に関連した社内規定類の見直し、改訂及び新規発行はありませんでした。	○
梱包材料の発泡レス化	段ボールや緩衝材(発泡材)など複数のリサイクル可能資源を利用した梱包仕様を見直し、一部の商品梱包を段ボールのみの梱包仕様に変更し、実験してみました。梱包作業と輸送強度(梱包品質)の実験結果から作業効率の改善と同等以上の輸送強度を有することが確認できました。今後、類似の製品梱包仕様に展開していく予定です。	○
廃棄物削減(銅くず、銅線)	昨年後半より新コイル巻線機の稼働を開始。当初、諸問題が発生しましたが順調に稼働しています。旧巻線機と比べ銅線の廃棄量が減りました。引き続き銅線廃棄量を削減できるよう継続的に活動をしていきます。	○
使用排水量削減	改善施策に基づく節水型設備機器への切替と節水意識向上の取組みにより、排水量は想定していた範囲に到達したと判断しました。今後は、現状維持に注力し、排水量の年間モニタリングのみを行い、問題が生じた場合は対策を図ることになります。	◎

5-3 継続中アクションプラン

2016年より開始アクションプラン

埼玉県狭山市資源循環推進課が運営している「事業所古紙共同回収システム」に参加しております。

<https://www.city.sayama.saitama.jp/jigyogomi/jigyogomi/jigyousyokosikaisyuu.html>

システムのメリット

- 1.ごみの減量化につながり、資源として再利用することが可能となります。
- 2.ごみの焼却量が減り、ダイオキシン類やCO2排出量の削減になります。
- 3.紙類の排出が比較的少ない事業所も参加できます。
- 4.企業として、環境保護や社会への貢献となり、企業のイメージアップにもつながります。

2013年度アクションプラン継続中

倉庫内照明で再生可能エネルギーを利用しています。



単三電池で動作するセンサーライト



小型ソーラー発電機。

2010年度アクションプラン継続中

埼玉県主催の”森林の保全整備や身近な緑の保全・創出など「みどりの再生」活動”へ参加し「都市への植樹」を選択し、7月に川越水上公園に植樹されました。植樹して約7年が経過しました。幹はしっかりと根付いています。



6 環境活動実績と中期目標

6-1 環境活動実績

調査対象場所: 狭山工場

環境活動実績は下表の通りとなりました。
(2012年の実績を基準値としております。)

項目	単位	内容	2012年 基準値	2015年 実績	2016年 実績	2017年 目標
水	m ³	使用量	185	137	128	2016年比 1%減
		排水量	185	137	128	
前年目標 結果			0	15%減	'15比 1%削減 ▲7%	
二酸化酸素排出量	Kwh	使用量	54,004	43,047	39,450	2016年比 0.1%減
	Kg-CO2	排出量	20,197	16,100	14,912	
前年目標 結果			0	3%減	'15比 3%削減 ▲7%	
産業廃棄物	Kg	完全 リサイクル	11,873	10,463	6,380	2016年比 1%減
前年目標 結果			0	1%減	'15比 15%削減 ▲39%	
一般廃棄物	Kg	一般	2,405	1,020	950	2016年比 10%減
		ダンボール	1,491	585	1503	
計			3,896	1,605	2,453	
前年目標 結果			0	-	'15比 1%削減 53%増	

* 二酸化炭素排出係数 http://ghg-santeikohyo.env.go.jp/files/calc/h26_coefficient.pdfを参照
2012年の排出係数0.374(Kg-CO2/kw)にて算出

○ 2016年環境活動実績の評価

水		一昨年「止水できるタイプの蛇口に取替」、「トイレの水タンクの容量を減らした節水型タンク」を採用し、その結果、排水量低減に反映されたと思う。引き続き「無駄」をなくしていくよう取り組んでいきたい。
二酸化酸素排出量		全従業員の協力・色々な施策により、目標であった「2020年迄に温室効果ガス「25%削減」(2012年比)」が数字上、2016年にクリアできた。今後も継続的に取り組んでいきたいと思う。
産業廃棄物 一般廃棄物		産業廃棄物: 2015年よりも大幅に削減ができた。「銅線廃棄量削減」を中心に取り組んだ結果と新コイル巻線機が導入された事が大きな要因である。今後も引き続き削減できるよう取り組んで行く。 一般廃棄物: 2015年と比べ、ダンボール廃棄量が大幅に増えた。要因は凡そ判明しているが今後も全従業員で削減できるよう活動していきたいと思う。

6-2 中期目標

目標 … 2020年迄に温室効果ガス「25%削減」(2012年比)

過去実績

項目	単位	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
水(使用量+排水量)	m ³	370	384	322	274	256
二酸化酸素排出量	Kg-CO ₂	20,197	17,709	16,925	16,100	14,912
産業廃棄物	Kg	11,873	10,754	7,845	10,463	6,380
一般廃棄物	Kg	3,896	5,571	1,605	1,605	2,453

中期目標

項目	単位	2017年	2018年	2019年	2020年
水(使用量+排水量)	m ³	‘16年比 1%減	‘17年比 1%減	‘18年比 1%減	‘19年比 1%減
		254	252	250	248
二酸化酸素排出量	Kg-CO ₂	‘16年比 0.1%減	‘17年比 0.1%減	‘18年比 0.1%減	‘19年比 0.1%減
		14,897	14,882	14,867	14,852
産業廃棄物	Kg	‘16年比 1%減	‘17年比 1%減	‘18年比 1%減	‘19年比 3%減
		6,316	6,252	6,189	6,003
一般廃棄物	Kg	‘16年比 10%減	‘17年比 1%減	‘18年比 1%減	‘18年比 3%減
		2,207	2,185	2,163	2,098

7. 環境関連法規への違反有無

環境関連法規制等は遵守されていることを確認しました。

又、創業以来、上記関連法規に違反・指摘、訴訟等はなく、近隣の方々からの苦情はありません。



8. 2016総括

‘16 有害物質・EA21活動結果(記録)

<有害物質関係>

月	活動概要	コメント
1~12月	蛍光X線装置にてはんだ中の鉛含有調査(1回/3カ月)	はんだ槽の残留鉛の定期的なサンプル測定の実施及び異常値を超えた時の対応手順を決定
1~12月	顧客からの有害物質調査依頼回答	29件(回答)/42件(依頼・昨年50件)

<EA21活動関係>

月	活動概要	EA21未実施事項の中の実施項目
2月	年度環境活動レポート作成	第5章環境活動ガイドライン
2・3月	環境活動レポートHP公表 2016年度アクションプランの検討・展開	4項 環境目標及び環境活動計画の策定
1~10月	従業員教育の実施	6項 教育・訓練の実施
12月	作業場の環境測定	

総括

今般の有害物質において、調査回答のフォーマットが統一されてきており弊社としては喜ばしい傾向である。
「RoHS2」がカテゴリー毎に規制開始時期が違うものの2019年7月より開始される為、今後調査が増えてくると予測し調査・回答を迅速に行っていききたいと思う。
エコアクションにおいては、当初目標にした「2020年迄に温室効果ガス25%削減(2012年比)」が2016年に目標をクリアでき嬉しい反面、一般廃棄物の量が増えてしまった為、今後も全従業員で活動していききたいと思う。



9. 2017計画・目標

顧客関連	計画
	データ収集の迅速化
	目標
	データ収集・調査回答の迅速化
EA21関連	計画・目標
	<ul style="list-style-type: none"> ・システム構築がほぼ完了したことにより、今後は既に実施済み活動について必要に応じて要求事項と活動の整合性確認、見直しや改善を行っていきます。 ・2020年迄に温室効果ガス「25%削減(2012年比)」計画クリアをしたが、継続的に削減 ・廃棄物 廃棄物分別の徹底 銅線、銅屑の継続削減

